【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成27年3月12日(2015.3.12)

【公表番号】特表2015-501597(P2015-501597A)
【公表日】平成27年1月15日(2015.1.15)
【年通号数】公開・登録公報2015-003
【出願番号】特願2014-538778(P2014-538778)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｗ　24/04　(2009.01)
Ｈ０４Ｗ　8/00　(2009.01)
Ｈ０４Ｂ　17/00　(2015.01)
Ｈ０４Ｍ　3/00　(2006.01)
Ｈ０４Ｌ　29/14　(2006.01)
Ｈ０４Ｗ　84/22　(2009.01)
Ｈ０４Ｗ　16/24　(2009.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｗ　24/04
Ｈ０４Ｗ　8/00　１１０
Ｈ０４Ｂ　17/00　Ｄ
Ｈ０４Ｍ　3/00　Ｅ
Ｈ０４Ｌ　13/00　３１１
Ｈ０４Ｗ　84/22
Ｈ０４Ｗ　16/24

【手続補正書】
【提出日】平成27年1月19日(2015.1.19)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ネットワーク内でセルラルータの問題を広告する方法であって、
実行可能命令で構成された１つまたは複数のプロセッサの制御の下で、
前記セルラルータにおける前記問題を認識するステップと、
セルラルータ障害通知パケットを構成するステップと、
前記セルラルータの前記問題を認識したことに応答して、前記セルラルータ障害通知パケットを、前記ネットワーク内の少なくとも１つのノードに送信するステップと
を備えたことを特徴とする方法。
【請求項２】
前記方法は、前記セルラルータによって実行され、および、
前記セルラルータにおいてセルフ診断を実行するステップと、
前記セルフ診断によって示されるように前記問題を識別するステップと、
前記ネットワークにおける第２のセルラルータに、前記セルラルータの前記問題を通知するステップと
をさらに備えたことを特徴とする請求項１に記載の方法。
【請求項３】
前記方法は、前記ネットワークにおけるノードによって実行され、および、前記セルラ

ルータの前記問題を認識するステップは、前記セルラルータによって非定型の振舞いを認識するステップを備えていることを特徴とする請求項１に記載の方法。
【請求項４】
前記セルラルータ障害通知パケットを構成するステップは、
前記セルラルータ障害通知パケットを、前記セルラルータ障害通知パケットをアドレス指定するネットワークデバイスからのダウンストリームのノードにアドレス指定するステップを備えていることを特徴とする請求項１に記載の方法。
【請求項５】
前記セルラルータ障害通知パケットを送信するステップは、
パケット送信に対する時間をランダム化するステップと、
前記ランダム化された時間で、複数のセルラルータ障害通知パケットを送信するステップと
を備えていることを特徴とする請求項１に記載の方法。
【請求項６】
前記方法は、前記ネットワークにおけるノードによって実行され、および、
前記セルラルータが、前記セルラルータへのパケットの送信に適切に応答しなくなったことを認識するステップをさらに備えたことを特徴とする請求項１に記載の方法。
【請求項７】
前記方法は、前記ネットワークにおけるノードによって実行され、および、
前記問題を認識したことに応答して、新たなセルまたはセルラルータを探索することを含む、ディスカバリモード機能を実行するステップをさらに備えたことを特徴とする請求項１に記載の方法。
【請求項８】
プロセッサと、
前記プロセッサと通信しているメモリと、
前記メモリにおいて定義され、および、前記プロセッサによって実行可能な障害認識機能と、
前記メモリにおいて定義されたセルラルータ障害通知パケットと、
前記障害認識機能からの問題のインジケーションに応答して、前記セルラルータ障害通知パケットを送信するように構成された入力／出力機能と
を備えたことを特徴とするネットワークデバイス。
【請求項９】
前記ネットワークデバイスは、セルラルータであり、ならびに、前記障害認識機能は、前記セルラルータのセルフテストを動作させ、および、問題を認識するように構成されていることを特徴とする請求項８に記載のネットワークデバイス。